

Science Cafe 2023

サイエンスカフェ



開催時間 10:00 ~ 11:15 (各回とも)

第1回 「ヒマラヤ山脈：科学者を悩ませる「シワ」の話」

7/1 (土)

なかじま とおる
中嶋 徹

ネオテクトニクス研究グループ
研究員・博士 (理学)



エベレストなどの 8000m 峰が連なるヒマラヤ山脈は、大地に巨大な「シワ」がよってできたと考えられています。しかし、なぜ大地に 8000m ものシワがよってしまったのでしょうか？講演ではヒマラヤの峰々を眺めつつ、50 年以上科学者たちを悩ませてきた大地の「シワ」の知られざる姿をお話します。



ダウラギリ (8167m) をのぞむ

第2回 「マグニチュードマイナスの地震」

7/29 (土)

むらかみ おさむ
村上 理

ネオテクトニクス研究グループ
博士 (理学)



報道などで耳にする (地震の規模を表す) マグニチュードは 2 や 3 程度が多いですが、地下 3000m の金鉱山で観測される極微小地震や岩石破壊実験で観測される破壊音などの微小な破壊の大きさは、マイナスのマグニチュードになります。微小な地震とはいえども大地震との物理的な違いはないことをご紹介します。



南アフリカ・イスルウニ
金鉱山の主立坑

第3回 「鉱物はマグマからの手紙」

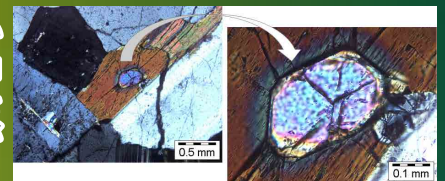
8/19 (土)

おぎた やすひろ
小北 康弘

年代測定技術開発グループ



マグマが冷えて固まった「深成岩」という岩石は、数ミリメートル程度の「鉱物」が集まってできています。その鉱物たちを「顕微鏡」で覗いて見てみると、マグマが冷えていった記録を読み取れることがあります。そんな「マグマが残したメッセージ」を鉱物から読み解いてみましょう。



光学顕微鏡で見た花崗岩 (左)
と鉱物の一例 (右)

申込み先・お問合せ先

☎ 0572-53-0211

(平日 9:00 ~ 16:00 受付)

東濃地科学センター 総務・共生課まで

〈ホームページからの申込〉

<https://www.jaea.go.jp/04/tono/form/form-sc.html>

※ ホームページから申込みされる方は、上記のアドレス、もしくは QR コードを読み、表示された申込フォームにしたがって氏名、電話番号、希望回等を明記の上ご送信ください。

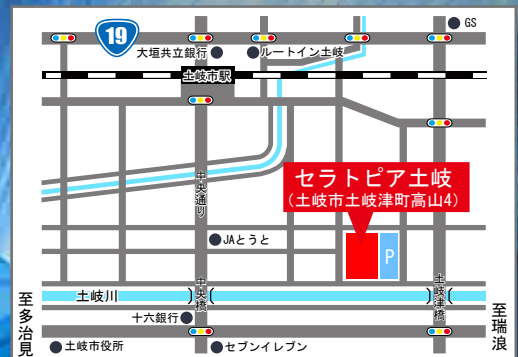


定員：先着 30 名 (各回とも)

申込方法：電話またはホームページ (事前申込み制)

会場案内 土岐市産業文化振興センター

セラトピア土岐 3F 第 1,2,3 会議室



〈主催〉 (JAEA) 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構 東濃地科学センター